

累進屈折力レンズによる眼精疲労対策

自身の視力で気になるのは、まず遠方、続いて近

方の見え方であり、若年者ほどその傾向は強くなります。そのため、遠方視の自覚視力を矯正したメガネやコンタクトレンズは強い矯正になりがちです。診察前の検査で度数が合ってなくても「遠くは見えているので気にしません」「運転免許が心配だからこのままで」等は、よく聞くフレーズです。遠くが見にくいというのは、近くや中間距離が見えなくて困るよりむしろ、遠くを見るのが楽で、近方、中間距離の方が圧倒的に多く、調節量は遠方視に比べてかなり増大

します。目が許容できる一定の調節量を超えたと感じるのが、調節性眼精疲労です。

遠方視が良いとは、遠方で頻繁に調節が働くことでもあり、更に近方、中間距離分の調節が加わると目には大きな負担となります。遠方から近方まで屈折度数が変化すると

調節量を減らし、眼精疲労の対策ができます。最新の累進屈折構造を持つメガネレンズやコンタクトレンズは、改良が進み、かなり見やすくなっています。是非お試しを。

調節量とトータルでの目の調節量を減らし、眼精疲労の対策ができます。最新の累進屈折構造を持つメガネレンズやコンタクトレンズは、改良が進み、かなり見やすくなっています。是非お試しを。

調節量とトータルでの目の調節量を減らし、眼精疲労の対策ができます。最新の累進屈折構造を持つメガネレンズやコンタクトレンズは、改良が進み、かなり見やすくなっています。是非お試しを。

伊田眼科クリニック

- ・眼科一般
- ・日帰り手術
- ・コンタクトレンズ取り扱い

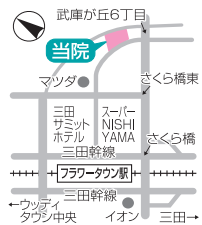
診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:30	○	○	○	○	○	○	△
12:30	○	○	○	○	○	○	△
15:30	○	手術	○	△	○	○	△
18:00	○	○	○	○	○	○	△

【休診日】木・土曜午後
日曜、祝日

TEL 079-556-8600

三田市武庫が丘7-7-4 エムズIIビル1階

<http://www.ida-ganka.com>



(院長・伊田宜史)